

安全データシート

作成日 2019年 5月 15日

改定日

1. 製品及び会社情報

製品名 Perfect—Sealer
 会社名 日本パーミル株式会社
 住所 愛知県春日井市如意申町5-8-3
 電話番号 0568-32-8500
 緊急連絡先 0568-32-8500

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性: 生殖細胞変異原性 : 区分1B
 生殖毒性 : 区分1A
 特定標的臓器・全身毒性(単回暴露) : 区分3
 特定標的臓器・全身毒性(反復暴露) : 区分1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

遺伝性疾患のおそれ
 眼刺激
 生殖能または胎児へ悪影響のおそれの疑い
 長期又は反復暴露による臓器(肝臓)障害のおそれ
 長期又は反復暴露による臓器(神経)障害のおそれ

注意書き

安全対策:

取扱い作業場では局所排気装置を設けること。
 取り扱い後は、手を洗い及びうがいを十分に行うこと。
 必要な時以外は、環境への放出を避けること。
 眼、皮膚に触れないように保護手袋、保護めがね、長袖の作業服を着用すること。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

救急処置:

眼に入った場合、多量の水で15分以上洗い、目の刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受けること。
 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師に診察を受けること。
 皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぎ多量の水と石鹸で洗うこと。医師の診察を受けること。
 飲み込んだ場合、安静にして直ちに医師の診察を受けること。

保管:

直射日光の当たらないところで容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。

廃棄:

内容物や容器は規則に従って破棄すること。

3. 組成、成分情報

化学特性

単一製品・混合物の区別: 混合物

成分情報 名称: アクリル及びウレタンエマルジョンの混合物

成分名	含有率%	CAS 番号	
アクリルエマルジョン	10~20		
エチルアルコール	1~3	64-17-5	
水	70~90		
ウレタンエマルジョン	0.2~1		
鉱油	0.24	72623-87-1	

4. 応急措置

- 目に入った場合: 清浄な水で最低 15 分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。
- 吸入した場合: 気分が悪くなった場合は直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合: 皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぎ多量の水と石鹸で洗うこと。
- 飲み込んだ場合: 水でよく口を洗い、直ちに医者の手当を受ける。
- 医師への注意事項: 情報なし。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤: 噴霧水、粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂
- 特有の消化方法: 初期の火災には、粉末、二酸化炭素などを用いる。
大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することを有効である。
周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。
移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
- 使ってはならない消火剤: 棒状水は、火災を拡散し危険な場合がある。
- 特定の危険有害性: 有害性は特になし。
- 特別な保護具: データなし。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項: 保護具及び緊急処置: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に喚起する。
露出した場合の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
処理作業の際には、保護具(ゴム手袋、保護メガネ、呼吸用保護具等)を着用し、飛沫が皮膚についたり、ガス・蒸気を吸入しないようにする。
風上から作業し、風下の人を退避する。
着火に備えて、消火器を準備する。
多量の場合は、人を安全に退避させる。
- 環境面での注意事項: 未処理で河川等に流さないこと。
悪臭等の発生のため、周辺の住民に漏洩の生じたことを通報するなどの適切な処置を行う。
- 除去方法: 吸着剤に吸入させ蓋つきの容器に回収し処分する(例: 砂、おが屑、珪藻土)。
法令に従って吸着剤を廃棄こと。

7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取り扱い: 労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。
保護メガネ、保護手袋などの適切な保護具を着用する。
作業場の換気を十分に行う。
スプレーミスとや蒸気を発生する作業の場合は、局所排気装置を設置するか、
フィルター付きの保護マスクを着用する。
- 保管: 5～35℃の範囲で、凍結しないように保護して保管すること。
使用後はしっかり蓋をしてほかんする。
直射日光を避け、換気の良いところで保管する。

8. 暴露防止及び保護装置

- 暴露濃度基準 許容濃度: 日本産業衛生学会(2005 年度版) TLV—TWA100ppm(エタノール)
管理濃度: 設定されていない。
- 設備対策 蒸気・ミスが発生する場合には、局所排気装置などを設置する。

保護具

- 呼吸用保護具: 状況に応じ; 防塵マスク、防毒マスクを着用する。
保護メガネ : 状況に応じ; 普通眼鏡型、ゴーグル型を使う。
保護手袋 : 状況に応じ; PE、ゴムなどの非浸透性の手袋を着用する。
保護衣 : 状況に応じ; 長袖作業衣等を着用する。
衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観: 乳白色液体
臭気: かすかな臭い
pH 値: 4.0～6.0
沸点: 100℃
融点: 約 0℃
初留点と沸点範囲: データなし
引火点: なし
溶解性: 水に無限大に希釈可能
蒸発圧: データなし。
爆発下限界: 適用せず
爆発上限界: 適用せず
熱分解: 正しく使用すれば、分解しない。
自己発火: 自己発火性なし。
爆発危険有害事項: 爆発性なし。
火災を引き起こす性質: 火災伝播性はない。
記載物質に関する情報: 水
蒸気圧: データなし
密度: 約 1g/cm³(20℃)
相対密度: データなし。
蒸気密度: データなし。
n-オクタノール/水分配係数: 適用せず

10. 安定性及び反応性

- 避けるべき条件: 低温(5℃以下)及び高温(50℃以上)
安定性: 正しく使用すれば安定。
避けるべき物質: 避けるべき物質はなし。

危険有害反応： 通常の取り扱い条件下で危険反応なし。
 危険有害な分解生成物： 通常の取り扱い条件下で危険分解物なし。

11. 有害性情報

急性特性：

経口 ラット LD50=6.2-17.8g/kg(エタノール)

飲み込むと有害のおそれ

経皮 データなし

皮膚に接触すると有害のおそれ

吸入(蒸気) ラット LD50=20000ppm/10H(エタノール)

吸入すると有害のおそれ

皮膚腐食性・刺激性： 皮膚に付着したままにしておく、炎症を起こす場合がある。

目に対する重篤な損傷・刺激性： ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1.2日間で回復する(エタノール。)

目刺激

生殖細胞変異原性： ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告がある(エタノール)。

遺伝性疾患のおそれ(区分1B)

発がん性： ACGIH A4(エタノール)。

生殖毒性： アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている(エタノール)。

生殖能または胎児への悪影響のおそれ(区分1A)

特定標的臓器・全身毒性(単回 曝露) ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に急性中毒作用を及

曝露)： 死に至ることがある。ヒトで5000ppmの吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。

(エタノール)

呼吸器への刺激のおそれ(区分3)

特定標的臓器・全身毒性(反復 曝露) ヒトでエタノールの長期大量摂取によりほとんど全ての臓器に障害を起

曝露)： こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化

を経て肝硬変に至る。

長期又は反復曝露による臓器(肝臓)の障害(区分1)

アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)

長期又は反復曝露による臓器(神経)の障害のおそれ(区分2)

吸引呼吸器有害性： 知見なし。

12. 環境影響情報

環境影響・生態毒性： 河川等に流出した場合はエマルジョン中の樹脂の粘着による呼吸困難のため、魚類が死亡する可能性がある。

残留性・分解性： 知見なし。

生体蓄積性： 知見なし。

土壌中の移動性： 知見なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄は焼却により行う。また、焼却するときは、焼却設備を用いて「大気汚染防止法」等に適合した処理を施し焼却する。

洗浄水等の排水は凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。水質汚濁防止法に注意する。又、廃棄物については廃棄物処理法に注意する。

汚染容器・包装： 内容物を完全に除いた後処分する。処理は法規の規定に従って行う。

14. 輸送上の注意

国連分類: 非該当
国連番号: 非該当
運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

消防法: 該当せず。
毒劇及び劇物取扱い法: 該当せず。
労働安全衛生法: 第 57 条 2 通知対象物 No.168 鉱油 No.61 エタノール
PRTR法: 該当せず。

16. その他の情報

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、いかなる保証もなすものではありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。

引用文献:

MSDS用物質データベース 日本塗料工業会
GHS対応MSDS、ラベル作成ハンドブック 日本塗料工業会
溶剤ポケットブック
危険防災救急便覧
各原材料製造会社発行製品安全データシート